

減災・復興デザイン教育研究センターの発足1年を迎えて

昨年6月に大分大学認定研究チーム（BURST：バースト）として、7名の教員を中心に「減災・復興デザイン教育研究センター」（通称 CERD：サード）が認定されました。発足当時の CERD では、災害前から復旧・復興段階までの連携を図る研究プロジェクトを実施するため、地域貢献機能の強化を目指した教育研究活動を行ってきました。

昨年度大分県では「豊後大野市綿田地区における地すべり」、「平成29年7月九州北部豪雨」、「平成29年第台風18号」などの大規模災害が発生。CERDではこれらの災害に調査・情報収集・提供を迅速に行うなど、災害調査・研究を実施してきました。また、学校現場や公民館講座で講話やワークショップによる防災教育を行う他、防災イベントへの出展など、防災教育・活動の支援を積極的に展開し、減災社会の実現と、地域との協働を目指した支援活動を展開してきました。

平成30年1月1日に学内共同教育研究施設として CERD は学内に常設されることとなり、研究チームからセンター（以下、減災センター）として学内組織へと形態を変え、センター長及びセンター次長を任命。そして4月から防災コーディネーター、専従事務員を配置しました。さらに兼任教員として学内から14名の教員を増員し、センター機能の充実と組織体制の強化を図りました。関係機関との連携においては、4月5日に国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所と連携・協力に関する協定を締結。4月16日には佐伯市との災害対策や災害対応に関して、相互に連携・協力することを定めた協定を締結しました。この他、大分市とは平成29年3月に大分大学と災害に係る協力体制に関する協定書を締結しており、今後、各種関係機関との連携強化を図っていきます。

発足から1年が経過した減災センターでは、大分県における地（知）の拠点として、防災・減災に関する地域貢献を果し、地域の安全・安心社会構築へ寄与することを目的とした諸活動を、引き続き展開していきます。

なお、4月以降の減災センター「災害等に関する調査研究」、「防災教育」、「復興デザイン」の主な活動の柱について、以下の通りご紹介いたします。

★災害調査研究

① 中津市耶馬溪町金吉地区で発生した山崩れにおける災害派遣（資料1）

4月11日未明に中津市耶馬溪町金吉地区で大規模な山崩れが発生。減災センターではいち早く現地に入り、山崩れの現地調査を実施しました。3日間の現地調査を終えたのち、4月15日に中津市長からの災害派遣要請をうけ、現地対策本部に減災センターの教員を派遣。現地では捜索活動に伴う危険性についての調査・助言を行うなど、捜索活動が終了するまで現地にて災害対応にあたりました。発生から12日間で減災センターでは延べ32人（合計330時間余）を現地に派遣するなどし、災害時対応における自治体への支援活動を実施しています。

② アライグマの防除情報共有と分布拡散予測に関する研究

特定外来生物アライグマの生息域が全国的に拡大し、生態系や農作物の被害が増加して

います。今後、アライグマの増加により、食害や生態系への被害の他、ウイルスの媒介等が懸念され、未然に防ぐ取組が重要とされています。本年度に入り、大分県では県北西部地区のアライグマ防除推進の取組が始まりました。減災センターでは、アライグマ防除情報の共有と分布拡散予測について、大分県生活環境部自然保護推進室や NPO と連携した事業を開始しました。

★防災・減災教育

① 災害ボランティア講習会の開催について

災害ボランティアに参加を希望する学生に対して、事前に災害ボランティアの本質を伝え、被災地における復興・復旧活動への理解を進めるための講習会を開催。本講習会は学生が被災地で行うボランティア活動に迅速に対応するほか、復旧・復興へのボランティア活動への理解を深めることを目的に定期的に開催しています。

② 防災講座について（資料 2）

地域の皆様に「防災を身近に感じて頂く」ことを目的に、定期的な防災講座を本学で実施しています。本講座では身近に発生する自然災害の講話や、ケガや病気に備えた応急手当など、地域の皆様の要望に応じた防災講座を開催します。講座は減災センターの教員をはじめ、防災コーディネーター（元臼杵市消防長）が講師を務めています。

★復興デザイン

① 火山災害に学ぶ復興デザインへの取組

九州では長崎県雲仙普賢岳の噴火による火山災害が 1991 年に発生。その後、2011 年には鹿児島県の新燃岳の噴火、2016 年には熊本阿蘇山の噴火により、大分県でも降灰が観測されるなど、九州の活火山では噴火が相次いでいます。最近では宮崎県硫黄山噴火に伴う河川でのヒ素の検出など、噴火や環境汚染に伴う災害が発生しています。大分県でも身近には鶴見岳・伽藍岳、由布岳、九重山を抱えており、火山防災に向けた取組が急務となっています。減災センターでは、火山災害・防災啓発を目的とした「雲仙普賢岳の火山災害に学ぶ復興デザイン」と題し、諸活動を始めています。

② 災害からの復旧・復興における地域支援活動

6 月 16 日に九州北部豪雨において大規模な被害が発生した日田市小野地区において、地域の方とのワークショップを開催しました。小野地区では災害時の対応のあり方、これからの地域をどうすべきかといった課題を抱えており、小野公民館の依頼を受け実施しました。地域の方から得られた意見を今後精査し、次の WS で共有することと、次の議論へ繋げ、復興への支援活動を継続的に行う予定です。なお、本内容に関しては 8 月 18 日（土）に日田市と共催で行う「防災シンポジウム」にて発表予定です。

減災センターの諸活動や災害情報に関しては、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.cerd.oita-u.ac.jp>